

## 戀の紅糸

東條 環

戀の紅糸繰る宵は

薄い情にひかされて

どこまで伸びる戀ごころ

胸のしごきも空解ける

着物のたけをかよわせる

絹の糸さへ切れもする

ましてかぼそい戀の糸

切れたところを何としよう

戀の紅糸繰る宵は

ほのかな戀の溜息か

諦めませうの涙かよ

窓の茜の遠あかり。

掲載誌：「山桜」昭和九年十月号

（民謡）